

貝塚データベースの作成と利用

松井 章

奈良国立文化財研究所

現在、考古学ではさまざまなデータベースが作成されつつあり、その一部はすでに利用されている。しかし、大部分はパーソナルコンピュータのもとで構築され、大型機のもとでの考古学とその関連分野の共有データベースとしては、まだその端緒についたばかりである。今回報告する「貝塚データベース」は、かつて酒詰仲男が『貝塚地名表』『日本縄文石器時代食料総説』において集成し、及川昭文らがデータベース化した「SAKAZUMEファイル」(及川ら1980)を発展させ、1960年以降のおびただしい発掘調査報告書、雑誌論文にあたり、追加、修正したものである。また、今回の集成にあたっては貝塚だけでなく、洞穴やそれ以外の遺跡で動物遺存体の報告されているものも加え、遺跡出土動物遺存体データベースとした。

KAIZUKA DATABASE

Data retrieval system on archaeological sites which preserved faunal remains

Akira MATSUI

Center for Archaeological Operations

Nara National Cultural Properties Research Institute

2-9-1, Nijo-cho, NARA 630, JAPAN

Though the database system has begun to be applied in archaeology in these years, most of them are applied on personal computer system as personally. *KAIZUKA*(Shell midden) database system is one of the oldest database in archaeology, which covered more than 700 shellmiddens during Jomon period and it was stored in large computer system constructed by Oikawa and others (Oikawa et al. 1980). This is a renewal of Oikawa's *SAKAZUME* data file up to date. Because the number of excavated sites and their reports have been some hundred times larger than the amount of Sakazume's work. According to our work since 1986, more than 3,000 archaeological sites which contains shell middens, rock shelters and other sites which preserved the faunal remains were added into *KAIZUKA* file. This will be opened for general researchers in the future.

1. はじめに

考古学における情報の氾濫がいわれて久しい。1969年度に988件であった発掘届等(注1)の件数は20年後の1989年度には25,367件と26倍にも増加している(注2)。また、行政調査における緊急発掘担当者は、4,336名(注3)にもものぼる。さらに毎年、出版される報告書の数は、2,000冊を越える(注4)。このような膨大な量の情報を効率良く整理し、必要に応じて引き出すには、コンピュータの利用抜きにしては考えられないだろう。

そうした意味から筆者は比較的早くから自分の研究活動のなかにコンピュータを導入し、情報の効率良い利用法を模索してきた。

筆者のこれまでの研究は、主として考古遺跡から出土する動物遺存体と呼ぶ、動物の骨や貝殻を調べ、過去の人間の動物利用の歴史を復原することを目的としてきた。従って、全国のどこかの遺跡で、どういった動物遺存体が出土しているのかといった問題が、筆者の研究の出発点といえる。こうした観点から、かつて酒詰仲男は、『日本縄文石器時代食料総説』(以下;『食料総説』と略す)と『貝塚地名表』(以下;『地名表』と略す)を著した(酒詰1959,60)。「食料総説」には、全国の貝塚836箇所(北海道を縄文文化から除外する)から出土した、動物植物遺体(人々の食料となったもの)として報告された種類は、軟体動物353種、節足動物8種、棘皮動物3種、魚類71種、爬虫類8種、鳥類35種、哺乳類70種、植物27種(注5)にのぼった。また、『地名表』では、樺太、北海道、台湾、朝鮮半島の貝塚を含む4251箇所を集成し、それぞれの貝塚に文献、その他の情報を記載している。このように整理された著作は、そのままコンピュータに移行することが簡単で、すでに及川ら(1980)によってSAKAZUMEファイルとしてデータベース化されている。

しかし、文頭で述べたように、1950年代までに発掘された遺跡と、それ以降、現在までに発掘された遺跡数は格段の差があり、また調査

の技術や精度、同定の基準なども遥かに進んでいるので、SAKAZUMEファイルを発展させ、現代の日本考古学の水準で『食料総説』、『地名表』を書き直すことが必要であった。

そうしたおりに、1985年、報告者、松井章は茂原信生を代表者とする、全国の遺跡出土の家犬の地名表作成に加わり、西日本の遺跡出土の家犬データベースの作成を行った(茂原ほか1986)。その時のデータベース作成の経験をもとに、日本全国の遺跡出土の動物遺存体を集成し、データベース化することを計画し、及川昭文氏の指導、助言のもとで『貝塚データベース』の作成を開始した。

2. 作成の経過

A. ワークシートの作成(1986年3月から1988年3月まで)(付図1,2)

文化庁監修の『全国遺跡地図』のなかから、『貝塚』、『洞穴』を選び、都道府県別に通し番号(ID番号に相当)を振りながらワークシートの遺跡名とわかる範囲でふりがな、所在地を入力する。この場合、遺跡の所在地を自治省の監修した『全国市町村コード』にもとずいて記入する。通し番号は6桁で頭2桁を都道府県コードとし、のこりの4桁で各都道府県ごとに独立冊子になっている『全国遺跡地図』の地図に記載の順に0001から番号を付ける。その場合、各遺跡の地図番号とその中の遺跡番号も備考に記入しておき、将来の遺跡座標の入力に備える。また、併行して奈良国立文化財研究所所蔵図書館の調査(1986年9月から1988年12月まで)を行う。それは奈良国立文化財研究所所蔵の遺跡調査報告書のすべてあたり、動物遺存体の記載のある遺跡について、その内容をワークシートに記入する。その場合、『全国遺跡地図』に記入されていない場合は、新規にワークシートを作成し、ID番号をふる。

B. 第1次データ入力およびその出力(1987年9月から1986年12月まで)

及川に依頼し、作成したワークシートを入力。

C. データ校正、追加、修正(1987年1月から1987年5月まで)

及川より返送されたデータ打ちだしをもとに入力ミス、ワークシートの作成ミス、追加、修正を行う。

D. 第2次データ入力、修正 (1987年5月から1990年3月まで)

及川のもとで、変更データを打ち直す (付図4.5)。

E. 地方ブロックの担当者へのデータ送付、追加、修正の依頼 (1990年11月開始)

北海道、東北、関東、九州、沖縄などに研究協力者をえらび、入力済みのデータを送付し、追加修正を依頼。

F. 第3次データ入力、修正 (適宜、奈良国立文化財研究所受け入れ図書など記載のある文献について追加ワークシートを作成中)

現在も、データ追加中。

G. データベースプログラム作成

ユーザの立場から見た、データベースのあり方をもとめる。グラフィックスをどうするか。

検索項目は？、

H. 協力者へのデータベースの公開およびプログラム修正

I. データベースの一般公開 (199?年より)

作成したデータベースは、一般の研究者が利用できるように公開し、かつ他のデータベースにもお互いアクセスできるように、心がけなければならない。その場合、著作権法との問題も生じるであろうが、原則としてはすべて公開する姿勢を維持したい。データベースの一般的な公開方法については何ら知識がないが、以下の方法を考えている。

- 1) オンラインデータベース
- 2) テキストファイルにして配布し、各自パーソナルコンピュータのデータベースにコンバートさせる。
- 3) CD-ROMの利用
- 4) ハードコピーのみの公表、検索は奈良国立文化財研究所および特定のデータベース配布機関において行う。

3. 考古学データベースの役割

1970年以前の考古学は、各地に中心となる研究者が大学、または在野におり、その研究者の統率のもとに地域的な研究がなされたケースが多い。したがって、考古学情報はそれぞれの地域ごとに集中管理されていた。この状態は、半面、その人脈、派閥内部で情報の独占をまね

き、遺物その他の情報の私有化といった弊害も生じていた。

1970年代の高度成長にともない、緊急調査の件数が急増し、従来の大学の研究室、遺跡調査団組織のような調査体勢では対応できなくなった。各地方自治体ごとに行政の一組織としての発掘調査機関が作られた。この動きは都道府県レベルから市町村レベルへと広がりつつある。情報の氾濫がいわれて久しい。都道府県の教育委員会ですら、それぞれの県内の発掘情報を把握できないところが見られる。

かなり以前から国立の文献情報センターの必要性がさげられるが実現は困難である。公共のデータベースを充実させることが現状では最も情報の氾濫にたいしての改善策となりうるだろう。だれかがはじめなければならないし、はじめた人間から公開しなければならないと考える。要は、10の情報提供に対して100、1,000の見返りがあることを認知させねばならない。

コンピューターの普及により、さまざまな考古学情報をデータベース化する方向が模索されつつある。実際にすでに各地で個人の研究者を中心にコンピューターによる報告書の整理、遺跡台帳のデータベース化が試みられる。しかし、個々人の作成しつつあるデータベースの項目設定は共通性をもたず、個人ベースで作成されたデータベースを合体させるためには多大な労力と2度手間を覚悟しなければならない。そこで、早急にさまざまな考古学データベースの構造、その内部の項目その他の設計の共通化をはかる必要がある。こうした意味で、「貝塚データベース」は、最初から汎用性をもたせ、個人データベースとしてでなく、共用データベースとして出発したので、今後、同様の考古学関係のデータベースと組み合わせ、さらに大規模な考古学、あるいは文化財データベースのひとつとして機能していけばよいのではないかとかんがえている。

【参考文献】

及川昭文、宮本定明、小山修三 1980 「貝塚デー

データベースその作成と応用」『国立民族学博物館研究報告』5(2);439-470。

酒詰仲男 1959 「日本貝塚地名表」土曜会 京都

酒詰仲男 1960 「日本縄文石器時代食料総説」土曜会 京都。

茂原信生 ほか 1986 「古代家犬の系統と移動に関する研究」文部省科学研究費補助金研究成果報告 [脚注]

注1) 文化庁記念物課「埋蔵文化財関係統計資料」による。この資料は「埋蔵文化財センターニュース」として毎年、奈良国立文化財研究所より公表されている。

注2) 学術調査と緊急調査の合計。ただし、1989年度の学術調査の件数は354件である。

注3) 都道府県教育委員会、関係機関、財団などの地方公共団体の組織に属するもので囑託を含む。

注4) 「埋蔵文化財センターニュース」No. 64によれば、1986年度の報告書の出版数は3,232冊におよび、そのなかで報告されている遺跡数は5,000を越える。

注5) 種の数え方は、生物学でいう「種(species)」でなく、科、属、種、その他の類というものまで含んだ数え方である。

[記入要項]

1) ワークシート作成上の注意

*遺跡番号：都道府県コード番号を頭の2ケタに、その後頭2ケタ+0001の様に番号を充てた。(但し、1990年以降の作成成分については頭2ケタ+1001より開始した。)

*市町村コード：「全国公共団体コード」より所在地の市町村のコード番号を記入する。

*遺跡名：漢字で、(仮)の方に読み仮名を記入。

*所在地：郡、市より記入。

*時代コード：別紙のASDBコード表(及川1983『考古学遺物・遺跡データベースの作成と利用法の確立』科研成果報告)より、該当分を番号で記入

*遺構コード：同上

*遺跡コード：同上

*土器型式：

*絶対年：

*参考文献：文献カード番号を記入

*出土遺物：ワークシートの下にある\$K=軟体、

\$R=哺乳類、などと種別の記号が充てられているので、必ず\$Oマークをつけて遺物の種名を記入する。類、科で示してある場合は、その通りに記入する。

2) 文献カード記入要項

*文献番号は、遺跡番号と同様に、頭2ケタに都道府県コード番号を後に0001の様に下1ケタより番号を充てた。(但し、1990年以降の分については頭2ケタ+1001より開始した。)

*書名(漢)：報告書などについては、シリーズ名、副題等まで記入。

*書名(名)：よみがなを仮名で、わかち書きにする。

*著者名(漢)：報告書等については編集者名を、論文、単行本等については著者名を記入。

*著者名(仮)：仮名で、わかち書きにする。

*巻・号：雑誌等の場合に記入。

*ページ：動物遺存体について記載されているページを記入。

*発行年：西暦で記入。

*発行者：複数の場合もすべて記入。

*コメント：報告書等で種の同定者、及び動物遺存体についての報告者と報告論文名を記入。

[付表、付図]

1) 貝塚データベースワークシートの記入例

2) 貝塚文献データベースの記入例

3) 文化庁に登録された貝塚の数

(岡山、広島両県は、未発掘の弥生～歴史時代の貝塚が多い)

4) 貝塚データベース ハードコピー例

5) 貝塚文献データベース ハードコピー例

1) 貝塚データベースワークシートの記入例

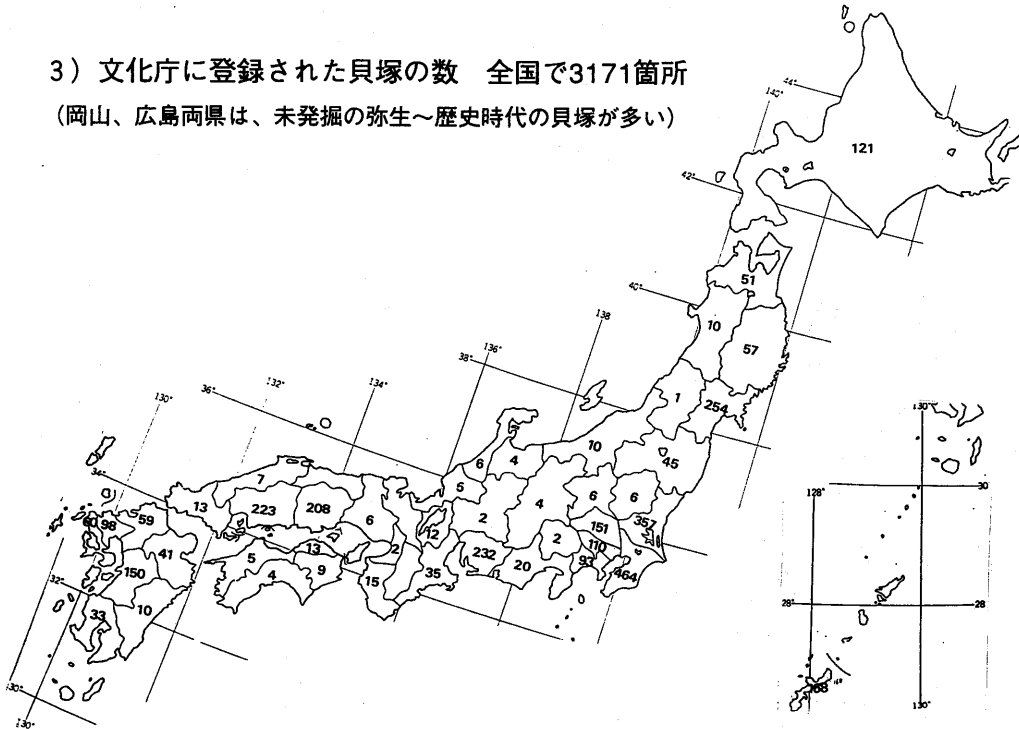
遺跡番号	\$A	040088	市町村コード	\$B	04361
遺跡名(漢字)	\$C	火田中貝塚			
遺跡名(仮名)	\$D	ヒタナカ			
遺跡所在地	\$E	宮城県亶理郡亶理町吉田火田中			
時代コード	\$F	28, 29			
遺構コード	\$G	120, 116 / 113			
土器型式	\$H	宝ヶ峰, 金剛寺, 大洞B, Cz			
絶対年代	\$I				
参考文献	\$J	040005, 040008			
	\$K	\$N	\$Q	\$R	
	アカカイ	サメ類	キジ	ノウサギ	
	サルボウ	エイ	ツル類	ムササビ	
	マガキ	サケ類	カイツブリ	アヌキ	
	ママトシジミ	ウグイ	カモ	イヌ	
	ハマヅリ	フナ	ハクチョウ	イノシシ	
	チョウセンハマヅリ	コイ	オオハクチョウ	シカ	
	コマカイ	コイ科	ヒメフイ	ゴンドウフシ	
	ウバカイ	ギギ	小型ワシ	アジ類	
	イフシジミ	ウナギ	タカ類	イルカ類	
	ゲンベイキサコ	ダツ			
	ヒメエゾボウ	ボウ			
		スズキ			
		タイ科			
		ハゼ			
		フグ			
	\$P	\$O	\$S		
	ヘビ	カエル	有		
備考	26-300				

\$K=軟体類 \$L=節足 \$M=鱗皮 \$N=魚類 \$O=両生類 \$P=爬虫類 \$Q=鳥類 \$R=哺乳類 \$S=人骨 \$T=植物 \$U=その他

2) 貝塚文献データベースの記入例

文献番号 SA	040005																			
番 名 (漢) SB	宮城県文化財調査報告 第115集 亶理町 文田中貝塚 - 黒森沢砂防流路工事関連調査報告書 -																			
番 名 (仮) SC	みぎぎん ぶんちゅう ちゅうま けいしき だい 115 (ちゅう) むたりにちゅう いたにのちゅう かいげん - くろもりさわ まげろ ながろ ながろ かわらん ちゅうま けいしき -																			
番 名 (漢) SD	藤沼 邦彦 氏																			
番 名 (仮) SE	ふしぬま くにひこ 氏																			
雑 記 名 SF																				
巻 号 SG				-				ペ ー ジ SH												
発 行 年 SI	1	9	8	6	発 行 者 SJ	宮城県教育委員会														
コ メ ン ト SK	・自然遺物同定-金子浩昌・岡村道雄 提供																			

3) 文化庁に登録された貝塚の数 全国で3171箇所 (岡山、広島両県は、未発掘の弥生～歴史時代の貝塚が多い)



貝塚データベース 一 タ ベ ー ス

- 208 -
遺跡番号順 10/08/1990

遺跡番号	遺跡名	コード類	出土遺物等
140095	新作小高台・遺跡 しんさくこたかだい・いせ き	CTY#14134 PRD#61 IKO#111 BIB#140031	所在地：川崎市高津区新作小高台 目 類：アカニシ、アサリ、アワビ、シオフキ、ハマグリ 哺乳類：イヌ、ウマ、ニホンジカ
140096	称名寺・貝塚(H・貝塚) しょうみやうじ・かいづか (H・かいづか)	CTY#14108 PRD#28 IKO#113 BIB#140025	所在地：横浜市金沢区寺前町 編 年：称名寺I・II、堀之内I
140097	権子塚・遺跡 かたびらね・いせき	CTY#14106 BIB#140033	所在地：横浜市保土ヶ谷区権子町358-1(兼地ほか) 目 類：アカニシ、アサリ、イボニシ、オキシジミ、カガミガイ、キヤゴ、サザエ、サルボウ、シオフキ、ツナタガイ、 ハイガイ、ハマグリ、マガキ
140098	平台北(・遺跡群)C・貝 塚 ひらだいきた(・いせきく ん)C・かいづか	CTY#14102 IKO#113 BIB#140034	所在地：横浜市神奈川区宮田町字川向2975-23ほか 目 類：アカニシ、アサリ、イボキサゴ、カガミガイ、サルボウ、シオフキ、ハマグリ
140099	西ノ浜南穴・遺跡 にしのはまどうけつ・いせ き	CTY#14210 IKO#113 BIB#140035	所在地：三浦市西ノ浜 目 類：アオガイ、アサリ、アモオボネガイ、アマガイ、アラムシロガイ、アワボネガイ、イガイ、イガイ科の一種、イシダミ、イ ソニチ、インバシヨウガイ、イタボクサキ、イボニシ、ウノアサガイ、ウミニチ、エガイ、オホヘビガイ、オニアサリ、カコボウ、カ ラマツガイ、カリガネガイ、カワチドリ、キイロダカラガイ、キクサリ、キクサズメガイ、クボガイ、クモノコガイ、コウダカア ボガイ、コガモガイ、コシタカガシラガイ、サザエ、サルノコシカガ、シラトリモトキガイ、シワボウタマシ、 スガイ、タマキビガイ、チリボタン、ツタノハ、ツノマタナガニシ、ツボミ、チンガイ、トコブシ、トヤキガイ、ハナマルユキガイ 一種、ハイ、パテイヤ、ヒヤラガイ、ヒダリマキマイ、ヒメアサリ、ヒメコサラガイ、ホソウミニチ、ボウショウボウ、マイマイマイの 一種、マガキ、マダカアワビ、マツバガイ、ミノクシカクガイ、ミズガイ、ムキガイ、ムシエビ、ムシエビ、ムカイアワビ、 レイシシガイ 節足類：アカフジツツボ、カニ、クロフジツツボ 硬皮類：ウニ 魚 類：アナゴ、ウツボ、カサゴ、カジキ、カツオ、カレイ科、カンガイ、クロダイ、サメ科、スズキ、ネコザメ、ハリセンボン、ブ ダイ、ベラ科、ボラ、マダイ、マフグ科 鳥 類：アビ、ウミウ、ウミスズメ、カイツブリ、カモ類、カラス科、キジ、ヒメウ、ミズナギドリ 哺乳類：イタチ、イヌ、イノシシ、イルカ、ウマ、クジラ科、シカ、タヌキ、テン、トブネズミ、ノウサギ、モグラ科
140100	鎌倉山新中央公民館用地内 ・遺跡 かまくらしんちゆうおう こうみんかんようちない いせき	CTY#14204 BIB#140036	所在地：鎌倉市小町 編 年：加勢利区II 目 類：アカニシ、アワビ、カキ、サザエ、ハマグリ 哺乳類：イヌ、イノシシ、ウサギ、ウシ、ウマ、シカ、ネコ
140101	狭島南穴・遺跡 さしまどうけつ・いせき	CTY#14201 IKO#111 BIB#140038、140053	所在地：横須賀市鎌島 編 年：弥生(久ヶ原、弥生町)、土師器(弥高) 目 類：アカニシ、アワステレ、イガイ、サザエ、シオフキ、ハカガイ、ヒバリガイ、マガキほか 魚 類：クロダイ(多) 鳥 類：ウミウ(主)
140102	豊田水郷・遺跡 とよだみづこう・いせき	CTY#14203 PRD#40-70 IKO#122-111 BIB#140037、140039	所在地：平塚市豊田本郷 哺乳類：ウマ
140103	黒ヶ崎南穴・遺跡 くろがさきどうけつ・いせ き	CTY#14201 IKO#111	所在地：横須賀市鶴屋高ヶ崎 編 年：弥生式(久ヶ原)、土師器(和泉)

貝塚文献データベース

31 - 文献番号 11/01/1990

文献番号	題名	著者	巻号等	発行著者
140033	種子菜園跡横浜新道三ツ沢ジャンクション地区遺跡発掘調査報告書	近藤, 英夫; 禿, 仁志; 佐々木, 藤雄	P: 301-303, 368-371 D: 1984	発行: 横浜新道三ツ沢ジャンクション遺跡調査会 注: 横浜市保土ヶ谷区新沢町 358-1 希地ほか, 第VI章 補論 種子菜園跡における貝殻の調査と貝類の分析: 宍糠子
140034	横浜市青田町平台北遺跡群発掘調査報告書	戸田, 哲也; 田村, 良照; 麻生, 順司	P: 61-63 D: 1984	注: 横浜市神奈川区青田町字川向 2975 番地の 2, 3 ほか, 土器 p. 21, 27
140035	三浦市西ノ浜南穴	岡本, 勇; 塚田, 明治; 小川, 裕久; 榎林, 輝久; 中村, 勉; 宇内, 正雄; 小暮, 啓明	P: 25-29, 5-6 D: 1983	発: 西ノ浜海蝕洞穴発掘調査団
140036	鎌倉市小町(推定) 藤内定員邸跡遺跡鎌倉市新中央公民館用地内遺跡の発掘調査報告	斎木, 秀雄; 河野, 真知郎; 菅田, 真; 小沢, 隆幸; 赤坂, 秀明	P: 91-95, 148 D: 1985	発: 鎌倉市教委 注: 加曾利口 II
140037	豊田本郷	明石, 新	P: 201-214 D: 1985	発: 豊田本郷遺跡発掘調査団 注: 第 8 章 付欄 第 4 節 豊田本郷遺跡出土遺物について: 金子祐昌, 平塚市豊田本郷
140038	三浦半島の古代文化	岡本, 勇; 小川, 裕久	P: 12-25 D: 1969	発: 横浜考古学会 注: 夏島, 平塚, 野島, 茅山, 吉井, 称名寺, 榎戸, 塚田, 鎌島南穴, 島ヶ崎南穴, 吉井麻山南穴
140039	ガイドブック 6 平塚の遺跡見つける・掘る・歩く	明石, 新	D: 1985	発: 平塚市博物館 注: p. 46-47 万田貝塚跡, 五領ヶ台, p. 69 豊田本郷
140040	大磯の遺跡 原始から江戸時代まで おおいそいせき げんしからえとじだいまで	神沢, 勇一; 鈴木, 一男 かみざね, ゆういち; すずき, かずお	P: 14, 35-36 D: 1985	発: 大磯町教委 注: 平塚跡 大磯町西久保字平, 大磯小学校
140041	称名寺貝塚発掘調査報告	岡本, 勇; 山中, 實夫; 小滝, 勉ほか	P: 47-79 D: 1984	発: 横浜市埋蔵文化財調査委員会 注: 金子祐昌
140042	横浜市磯子区峯遺跡群発掘調査報告書	浅川, 利一; 戸田, 哲也; 河合, 英夫	P: 96-99 D: 1986	発: 峯遺跡群発掘調査団 注: 磯子区磯子町字峯
140043	ふるさとかわさきめぐり	入谷, 清之; 尾池, 真人ほか	D: 1984	発: 川崎市教委 注: p. 31 子母口, p. 66 下原遺跡
140044	神奈川県史資料編 20 考古資料	泉史編纂室	D: 1979	発: 神奈川県 注: p. 87 窪台・大原, p. 88-89 影向寺・子母口, p. 90-91 栗田南畑, p. 92-94 峯谷・宮ノ原・茅ヶ崎・中ノ窪, p. 96-98 折木・磯原跡・木-2・上台, p. 99-106 子仙塚・北台・荒立・風早台・大口台・白崎西・東ヶ丘, 下菅田, 伏見塚, 龜山・池ノ坂・平台・稲荷山・清水ヶ丘・山王台・矢畑・三野台・杉田, p. 110-140 磯戸
140045	鎌倉市史古編	赤星, 直忠; 亀井, 高孝	P: 47-48 D: 1959	発: 鎌倉市 注: 平戸山遺跡
140046	横浜須賀町博物館研究報告(人文科学) 第 25 号三浦半島における縄文時代の貝相について	大塚, 真弘	P: 35-45 D: 1981	発: 横浜須賀町博物館
140047	横浜須賀町博物館研究報告(人文科学) 第 7 号横浜須賀町吉井城山第一貝塚調査報告(一)	赤星, 直忠	P: 1-15 D: 1963	発: 横浜須賀町博物館

5) 貝塚文献データベース ハードコピー例